

株式会社アダマック 工事部

施工基準書

2016年度 第2版

本基準書は、毎年度見直しを行い実態に合わない内容は訂正・削除し、取決めが必要な内容は追加することで、常時当社の施工上の指針となるようにメンテナンスを行う。

はじめに

1. 本書の目的

確保すべき施工品質の最低基準を明確にし、施工基準書として運用を図り製品品質の標準化を目指すことを目的とする。

2. 運用

本施工基準書は、2016年8月1日より2017年7月31日まで運用する。

- ・設計図書を最優先とする。
- ・基準項目は、すべて社内基準とする。
- ・基準項目の追加若しくは変更が行われた場合は適宜対応する。

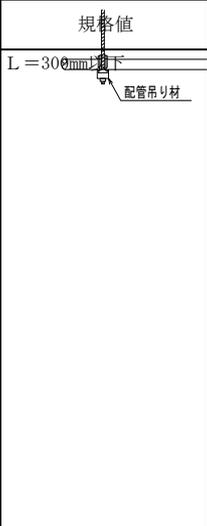
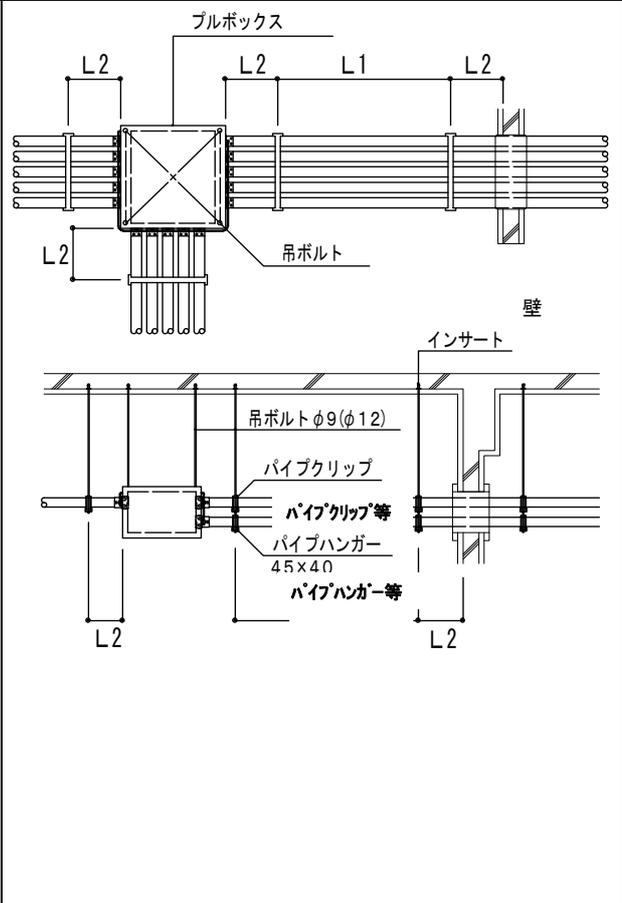
1. 一般事項

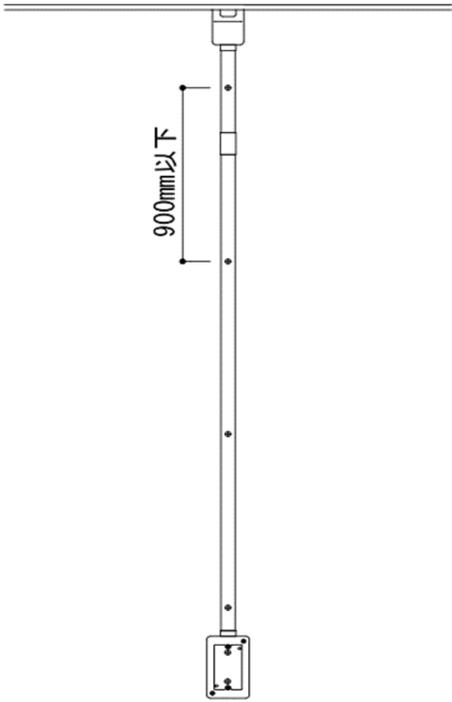
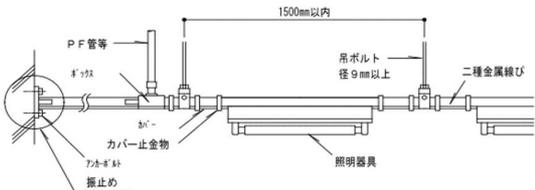
- 工事日報は、毎日作業終了後に記入を行い、毎月20日に総務へ提出する。
- 毎日の行先及び作業内容を工事部用ホワイトボードへ記入し、スケジュール管理を行う。
- 毎週金曜日の、工事部打合せには原則として必ず出席する。
- メンテナンス工事終了後は、必ず現場担当者に作業完了の報告を行う。
- メンテナンス工事完了後、作業完了報告書に必要事項を記載し、現場担当者へ提出する。
- 原則として、工事現場に電線・ケーブル等を保管しない。
※止むを得ず保管する場合は、防犯対策を徹底すること。
- 電動工具、腰道具は必ず毎日持ち帰る。
-
-
-

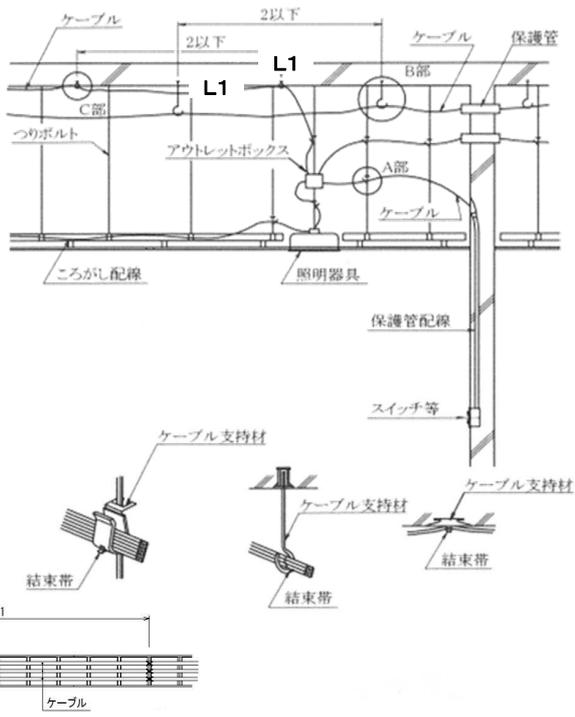
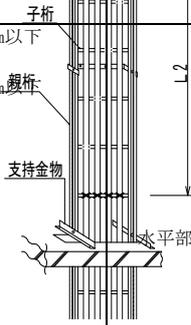
2. 施工基準

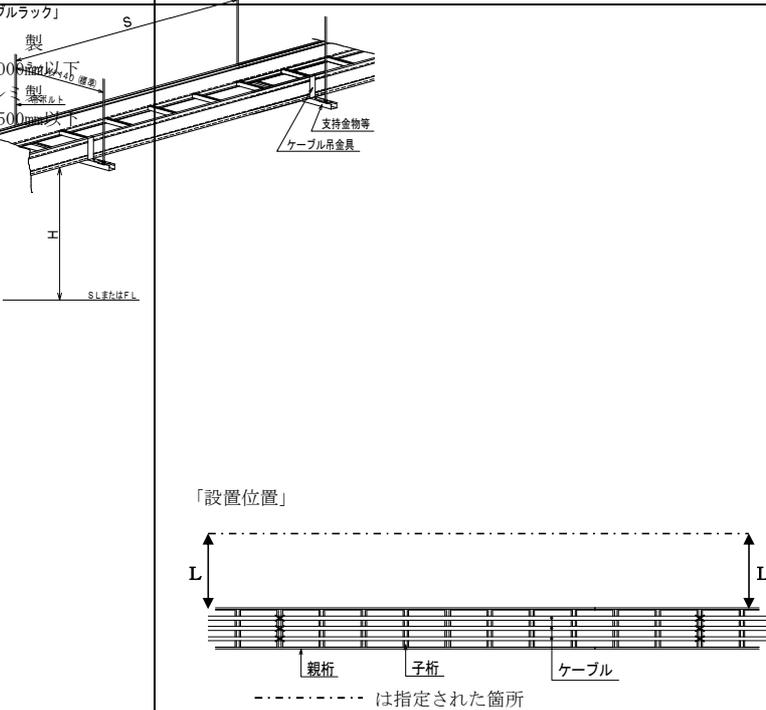
項目	工種	社内基準	規格値	基準図(施工方法)	摘要
電線等の防火区画等の貫通	防火区画の貫通	「管路」 不燃材の管 L=1000mm以上	L=1000mm以上		
	防火区画の貫通	メーカー 標準施工に準ずる		<p style="text-align: center;">金属管 (床・壁)</p>	
	防火区画の貫通	メーカー 標準施工に準ずる		<p style="text-align: center;">P F 管・ケーブル貫通</p>	

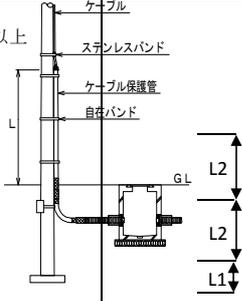
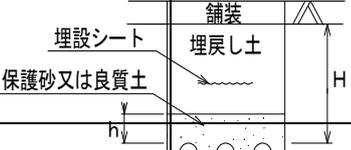
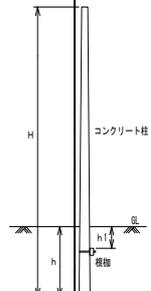
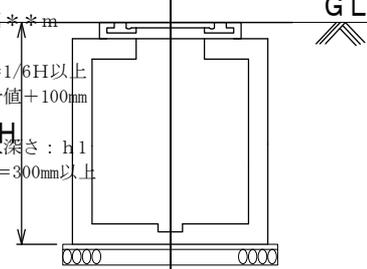
項目	工種	社内基準	規格値	基準図(施工方法)	摘要
埋込配管	合成樹脂管配管	L=1000mm以下	L=1000mm以下		
	合成樹脂管配管	L=300mm以下	L=300mm以下		
軽量内等隠ぺい配管	合成樹脂管配管	L1=1500mm以下 L2=300mm以下 ※コンクリートに埋設する場合L1を1000mm以下とする	L1=1500mm以下 L2=300mm以下		
	合成樹脂管配管	L1=1500mm以下 L2=300mm以下 ※コンクリートに埋設する場合L1を1000mm以下とする	L1=1500mm以下 L2=300mm以下		

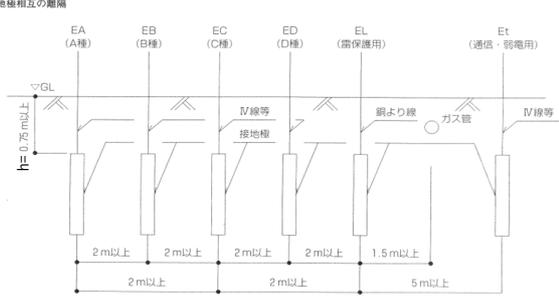
項目	工種	社内基準	規格値	基準図(施工方法)	摘要
露出配管	金属管配管	L=300mm以下	L=300mm以下 		
	金属管配管	L=2000mm以下	L=2000mm以下		
	金属管配管	L1=2000mm以下 L2=500mm以下	L1=2000mm以下 L2=500mm以下		

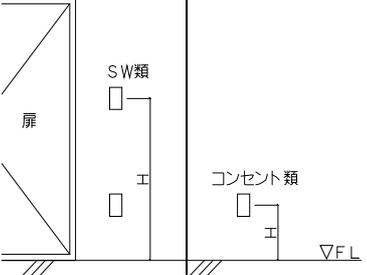
項目	工種	社内基準	規格値	基準図(施工方法)	摘要
金属線び	1種金属線び (メタルモール)	支持間隔： 900mm以下 垂直： 1mにつき1mm以内	支持間隔： 1000mm以下		
	2種金属線び (レースウェイ)	支持間隔： 1500mm以下	支持間隔： 1500mm以下		

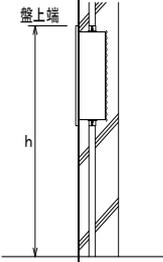
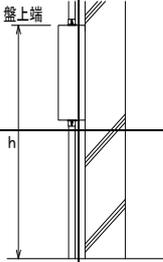
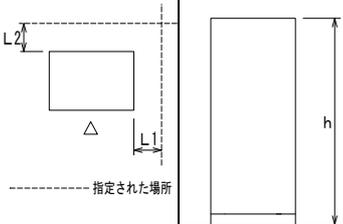
項目	工種	社内基準	規格値	基準図(施工方法)	摘要
二重天井内配線	ケーブル配線	L1=2000mm以下 ※ケーブル支持材は本数に見合った資材を使用する	L1=2000mm以下	 <p>この図は、二重天井内のケーブル配線方法を示しています。天井の裏面にケーブルを敷き、A部、B部、C部の各部分でケーブルを固定します。また、アウトレットボックス、照明器具、スイッチ等も天井裏面に設置されます。ケーブルは保護管で保護され、結束帯で束ねられています。ケーブル支持材の形状は一例を示しています。</p>	
ケーブルラック上配線	ケーブルラック配線	L1=1500mm以下 L2=1000mm以下	L1=3000mm以下 L2=1500mm	 <p>この図は、ケーブルラック上の配線方法を示しています。ラックの内部にケーブルを垂直に配線し、支持金物で固定します。水平部と垂直部の長さをそれぞれL1とL2で示しています。</p>	

項目	工種	社内基準	規格値	基準図(施工方法)	摘要
ケーブルラック設置	ケーブルラック設置	支持間隔：S 鋼製 S=1800mm以下 アルミ製 S=1500mm以下 取付高さ：H 設計値±10mm 設置位置：L 設計値±10mm	「ケーブルラック」 鋼製 S=2005mm以下 アルミ製 S=1500mm以下 H L SLまたはFL		

項目	工種	社内基準	規格値	基準図(施工方法)	摘要
地中配管・ケーブル保護	ケーブル配線	ケーブルの立上げ保護：L L1=500mm以下 L2=1500mm以下 ステンレスバンド 1000mm以下	L=2500mm以上 		
	地中配管	保護砂 厚さ：h 管上部：50mm以上 埋設深さ：H 設計値以上 但し、上限は200mm までとする。 埋設シートは Hの1/2に敷設			
コンクリート柱建柱		根入深さ：h $H \leq **m$ $h = 1/6H$ 以上 設計値+100mm 根入深さ：h1 $h1 = 300mm$ 以上	$H \leq **m$ $h = 1/6H$ 以上 設計値+100mm 根入深さ：h1 $h1 = 300mm$ 以上		
ハンドホル設置	ブロックハンドホル	埋設深さ：H 設計値±30mm			

項目	工 種	社内基準	規格値	基準図(施工方法)	摘 要
接 地 工 事	A種接地工事 E _A	接地極の埋設 深さ：h h = 750mm以上 接地極相互の 離隔：右図 接地抵抗値 9 Ω以下	h = 750mm以上 接地極相互の 離隔：右図 接地抵抗値 10 Ω以下	 <p>建造物と接地極の離れは1m以上とする。</p>	
	B種接地工事 E _B	接地極の埋設 深さ：h h = 750mm以上 接地極相互の 離隔：右図 接地抵抗値 電力会社計算値の 90%以下とする	h = 750mm以上 接地極相互の 離隔：右図 接地抵抗値 電力会社計算値		
	C種接地工事 E _C	接地極の埋設 深さ：h h = 750mm以上 接地極相互の 離隔：右図 接地抵抗値 9 Ω以下	h = 750mm以上 接地極相互の 離隔：右図 接地抵抗値 10 Ω以下		
	D種接地工事 E _D	接地極の埋設 深さ：h h = 750mm以上 接地極相互の 離隔：右図 接地抵抗値 90 Ω以下	h = 750mm以上 接地極相互の 離隔：右図 接地抵抗値 100 Ω以下		

項目	工 種	社内基準	規格値	基準図 (施工方法)	摘 要
機 器 取 付	配線器具取付	取付高さ：H 設計値±20mm			

項目	工 種	測定項目	規格値	測 定 箇 所	摘 要
分 電 盤 取 付	埋込型	取付高さ：h 設計値±20mm 垂直： 1mにつき1mm以内			
	露出型	取付高さ：h 設計値±20mm 垂直： 1mにつき1mm以内	 		
	自立型	取付高さ：h 設計値±20mm 据付位置：L1 設計値±20mm 据付位置：L2 設計値±20mm 垂直： 1mにつき1mm以内			

3. 施工方法

- ・ 金物等に取付する保護キャップは、屋外で使用する場合はグレーとし、屋内で使用する場合は、その都度担当者と協議する。
- ・ 外気等による結露が起きる恐れのある場所及び水、埃、音の入る恐れのある所に使用する配管端部には、シール等を充填し水等の進入を防ぐ。
- ・ 屋外及び水気のある場所にて機器にコーキングを行う場合、専用の養生テープ及び工具を使用する
- ・ 屋外で使用する配管支持金物等は、原則溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
ただし、別途指示があった場合はこの限りではない。
- ・ 新設工事に限らず、改修工事及び仮設工事においても接地抵抗測定を行い、基準値に満たない場合、担当者と協議する。
- ・ 屋外配管において、支持材にサドルを使用する場合は、原則両サドルを使用する。
- ・ 各支持材の取付後、ナットの増締め、及びマーキングを行う。
- ・ 単相200V回路にVVFケーブル等を使用する場合、R相に赤色、T相に黒色、S相に白色の電線を使用する。
- ・ ケーブルの結束等に結束バンドを使用する場合、屋外は黒色、屋内は白色とする。
ただし、別途指示があった場合はこの限りでない。
- ・ ブレーカーとの接続は、原則端子接続とし単線の場合端子接続若しくは巻付接続とする。
- ・ ブレーカーに接続後は、増締め及びマーキングを行う。
- ・ 配線器具を取付する場合、水平器を使用する。
- ・ 壁・床・基礎スリーブを固定する場合、被服バンドを使用する。
- ・ 地中での接地線の結線は、圧着接続とし、エフコテープ及びビニルテープで処理をする。
- ・ 最上階で、断熱材の中に使用するインサートは断熱仕様とする。
- ・ 中空耐火壁に使用する配管はPF管とし、ボックスは金属製を使用する。
- ・ 端末部以外の15Aコンセントの配線は、原則2.0mm以上とする。
- ・ 壁付コンセントプレートに弱電機器が混合する場合、弱電機器を壁側に取り付ける。
取り付ける。ただし、別途指示があった場合はこの限りでない。
- ・ スイッチを3個以上取り付ける場合は、ネーム付を使用する。
- ・ プルボックス内のボルト先端部には、必ずすべてにボルト端末保護キャップを取り付けること。